



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)北11西1計画 新築工事	階数	15
建設地	札幌市北区北11条西1丁目10-2	構造	RC造
建物用途	集合住宅	平均居住人員	98人
竣工年	2026年3月 予定	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
敷地面積	876 m ²	評価の段階	実施設計段階評価
建築面積	287 m ²	評価の実施日	2024年7月23日
延床面積	3,451 m ²	作成者	中田裕之
		確認日	2024年7月23日
		確認者	中田裕之

※ここに外観パースを貼り付けてください。

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★ B+

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm] **0.94**

ZEB/ZEH-Mランク **非該当**

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>市営地下鉄南北線北12条駅および東豊線北13条東駅の2線が徒歩圏である利便性の高い閑静な住宅街に溶け込むようエントランス部の緑化デザインを積極的に行って緑豊かな街区形成に寄与することをコンセプトとしています。居住者及び建物利用者に対する心理的充足感を満たすよう上記総合デザインと合わせて以下A~Dについて配慮しています。</p>	<p>A 省エネルギー</p> <p>日本住宅性能表示基準の断熱等性能等級4を満たし、省エネルギー対策に貢献しています。照明器具はLED光源の器具を採用しています。衛生器具は節水型器具を取り付けています。</p>
<p>B 省資源等</p> <p>できる限りの再生可能な建材を選定しました。分別が比較的容易な乾式間仕切壁の採用や、吹付ウレタンの断熱材使用をしています。</p>	<p>C 緑化</p> <p>敷地周辺環境への調和と建物使用者の心理的安否を重視し、耐寒性、耐陰性に優れた敷地の両側に高木低木を組み合わせさせた緑地帯を形成しています。ゴミ置場は建物内部、ポイラー置場は道路から離して配置することで、景観に配慮</p>
	<p>D 雪処理</p> <p>敷地外への雪害対策、冬期間の除排雪作業に配慮し、敷地内の駐車場や歩行範囲にロードヒーティングを敷設しています。</p>

4 ほかの認証・評価制度の利用

(一財)住宅・建築SDGs推進センターのCASBEE認証	なし	BELS認証	なし	LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用	-				

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■環境品質Q = 25 × (Qのスコア - 1)、環境負荷L = 25 × (5 - LRのスコア)より算出

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分				住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1	開口部遮音性能		T-2以上	5.0	1.00	5.0	0.30			
2	界壁遮音性能		—		-	3.0	0.30			
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		—		-	3.0	0.20			
4	界床遮音性能(重量衝撃源)		—		-	3.0	0.20			
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1	室温		—	1.0	0.63	-	-			
2	外皮性能	省エネ	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。	3.0	0.38	4.0	1.00			
3	ゾーン別制御性		—		-		-			
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 屋光利用										
1	屋光率		2.0% ≤ [屋光率]	5.0	0.60	5.0	0.50			
2	方位別開口		—		-	1.0	0.30			
3	屋光利用設備	省エネ	—	3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策										
1	屋光制御	省エネ	ブラインドによりグレアを制御、もしくはカーテン、スクリーン、オーニング、庇のうち、2種類以上を組み合わせる。	2.0	1.00	4.0	1.00			
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1	化学汚染物質		建築基準法を満たしており、かつ建築基準法規制対象外となる建築材料(告示対象外の建材およびJIS・JAS規格のF☆☆☆☆)をほぼ全面的(床・壁・天井・天井裏の面積の合計の70%以上の面積)に採用している。	4.0	1.00	4.0	1.00			
4.2 換気										
1	換気量		—	3.0	0.50	3.0	0.33			
2	自然換気性能		居室面積の1/8以上の開閉可能な窓を確保している。		-	4.0	0.33			
3	取り入れ外気への配慮		—	1.0	0.50	1.0	0.33			

4.3 運用管理					-		-		
1	CO ₂ の監視		-		-		-		
2	喫煙の制御		-		-		-		
Q2 サービス性能					0.30	-	-	3.6	
1 機能性					4.0	0.40	4.4	1.00	4.3
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性		-		-		-		
2	高度情報通信設備対応		各住戸または各客室にGbitクラスのプロードバンドが利用可能な環境が整備されていること。		-		5.0	1.00	
3	バリアフリー計画		-	3.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性					5.0	0.30	3.5	0.40	
1	広さ感・景観		-		-		3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース		-		-		-		
3	内装計画		インテリアコーディネーターによる内装計画をパース等で事前検討している。	5.0	1.00		4.0	0.50	
1.3 維持管理					4.5	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計		エントランスは水洗いが可能なようにタイルを選定する等、配慮している。	4.0	0.50		-		
2	維持管理用機能の確保		ゴミ置場は屋内内アクセス・搬出が容易である等、維持管理機能を確保している。	5.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性					3.0	0.30		-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		-	3.0	0.80		-		
2	免震・制震・制振性能		-	3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数					3.4	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		住宅の品質確保の促進に関する法律(日本住宅性能表示基準、3.劣化の軽減に関する事)における木造、鉄骨又はコンクリートの評価方法基準(平成26年国土交通省告示第151号)で等級3相当	5.0	0.20		-		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	-	2.0	0.20		-		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	-	2.0	0.10		-		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	屋外露出ダクト、厨房排気ダクト、高湿系排気ダクトなど垂鉛鉄板では耐用年数が一般空調換気と比較して短くなると考えられる系統にステンレスダクトやガルバリウムダクトなど長寿命化を図っている。または、内部結露水を適切に排水できるようになっている。	4.0	0.10		-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用	4.0	0.20		-		
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.20		-		
2.4 信頼性					2.6	0.20		-	
1	空調・換気設備		-	3.0	0.20		-		
2	給排水・衛生設備		-	2.0	0.20		-		
3	電気設備		-	3.0	0.20		-		
4	機械・配管支持方法		-	3.0	0.20		-		
5	通信・情報設備		-	2.0	0.20		-		
3 対応性・更新性					3.2	0.30	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり						-	3.6	0.50	
1	階高のゆとり		2.9m以上、3.0m未満		-		4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-		-		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり						-	3.0	0.50	

3.3 設備の更新性				3.2	1.00		-	
1	空調配管の更新性		-	3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		構造部材を痛めることなく修繕、更新できる。	4.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		-	3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		-	3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		-	3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		-	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30		-	2.2
1	生物環境の保全と創出	緑化	-	1.0	0.30		-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	緑化	-	3.0	0.40		-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	-	3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化	-	2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性								3.1
LR1 エネルギー				-	0.40		-	3.5
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI= 0.00 品確法= 等級4 日本住宅性能表示基準、断熱等性能等級における等級4相当である。	4.0	0.22		-	4.0
2	自然エネルギー利用	省エネ	-	-	-		-	-
3	設備システムの高効率化	省エネ	BEI= 0.94 -	3.6	0.56		-	3.6
4	効率的運用			3.0	0.22		-	3.0
集合住宅以外の評価								
4.1	モニタリング	省エネ	-				-	
4.2	運用管理体制	省エネ	-				-	
集合住宅の評価				3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング	省エネ	-	3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制	省エネ	-	3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	3.0
1	水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1	節水		節水コマなどに加えて、省水型機器(擬音、節水型便器など)などを用いている。	4.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60		-	2.7
2.1	材料使用量の削減	省資源	-	2.0	0.10		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	省資源	-	3.0	0.20		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	省資源	-	3.0	0.10		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	戸境壁及び各居室内の乾式間仕切、断熱材のウレタン吹付等、分別が概ね比較的容易である。	4.0	0.20		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.20		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			居室内の接着剤、塗料、シーリング材は概ねF☆☆☆☆としている。	5.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70		-	
1	消火剤	省資源	-	-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源	-	3.0	1.00		-	
3	冷媒	省資源	-	-	-		-	
LR3 敷地外環境					0.30		-	2.8
1 地球温暖化への配慮		省資源	-	3.5	0.33		-	3.5
2 地域環境への配慮				2.6	0.33		-	2.6
2.1 大気汚染防止		省資源	-	3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 緑化 雪処理	-	2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.7	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	省資源	-	3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		自転車置場、駐車を十分に確保しており、駐車場の導入路も周辺道路の渋滞緩和ができるよう配慮している。	4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	屋内に十分な広さの24時間ゴミ置場を設置し、搬入経路は道路までロードヒーティングを敷設する等の配慮を行っている。	5.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				2.2	0.33		-	2.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1	騒音		-	3.0	0.33		-	
2	振動		-	3.0	0.33		-	
3	悪臭		-	3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				1.6	0.40		-	
1	風害の抑制		-	1.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		-		-		-	
3	日照阻害の抑制		-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				1.9	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	1.0	0.70		-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		建物外壁(ガラスを含む)の反射光(グレア)の発生を低減させる取組みを行っている。	4.0	0.30		-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2021v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2021(ver.1.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)北11西1計画 新築工事	BEE	1.1	BEEランク	B+
建物用途	集合住宅				
延床面積	3,450.8 m ²				

2 重点項目への取り組み

レーダーチャート

地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>雪処理</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★★★★★	

3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー (最高点 40.8 最低点 10.6)		合計		30.5点 / 40.8点	
Q1 温熱環境	スコア 9.0 / 11.3	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 3.6 / 4.4		
Q1 光・視環境	スコア 7.2 / 9.6	LR1 自然エネルギー利用	スコア 0.0 / 0.0		
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 8.0 / 11.1		
		LR1 効率的運用	スコア 2.7 / 4.4		
B 省資源等 (最高点 23.9 最低点 7.5)		合計		13.5点 / 23.9点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.6 / 1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 4.9 / 9.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 / 2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.3 / 2.1		
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.5 / 5.0		
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.3 / 4.4		
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)		合計		6.4点 / 15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 0.9 / 4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 / 2.5		
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 3.6 / 6.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 / 2.3				
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		合計		3.0点 / 3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0 / 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 2.0 / 2.0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数